

教育目標	本校教育実践の蓄積を生かしつつ、新しい時代に生徒が未来社会を切り拓ひらくための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。また、知識理解の質を更に高め、確かな学力を育成するとともに、豊かな心や健やかな体を育成する。	総合評価
運営方針	・新しい時代を逞しく生きる力を意識し、身につけるために探究的活動に力を注ぐ。・高大接続に関して要求される資質・能力および確かな学力を育成する。 ・社会の形成者として有為な人材となることを目指す。	

本年度重点目標	具体的目標
探究活動に積極的に取り組ませる。	・自ら課題を見つけ、探究する態度を養成する。 ・協働した内容や自分の考えを他者に伝える力を身につける。
本当に必要な力を身につける授業改善を進める。	・基本的学力を徹底的に身につけさせる。 ・生徒の脳がより活性化し、積極的に学びに向うことを目指す。
進路指導の充実を図る。	・新しく正確な情報を提供する。 ・将来への希望を育み、その実現に向かうエネルギーを培う。
豊かな人間性と人格の涵養に努める。	・自分を大切にし、他者を思いやることの大切さを日常の中で気づかせる。 ・地域とのつながりを意識し、奉仕者精神を学ばせる。
学校行事や部活動から学ぶ。	・目標に向かい努力することの意味と喜びを知る。 ・より健康な心身を育むよう取り組む。

**B**

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	観点別評価の推進	観点別評価の推進に向けて、単元ごとや授業ごとの評価方法を研究し、考査に反映させる。	昨年度と比較して観点別評価をした機会が増えたと答えた職員が7割を超えればA、7割～5割ならB、5割～2割ならC、2割未満ならDとする。	—	観点別評価の推進に向け、単元ごとや授業ごとの評価方法を研究し考査に反映させるように各教科にお願いしている。なお、教員アンケート実施後に自己評価を行う予定である。	B	『観点別評価の推進に向けて単元ごとや授業ごとの評価方法を研究し考査に反映させることができましたか。』という質問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた教員はあわせて54%であり、半数強の教員は考査に反映できたと考えられる。しかし「そう思う」と積極的な回答をした教員は少数にとどまり、まだ十分とはいえない	観点別評価についてはまだ課題があるが、校内で評価についての環境を整え、推進し、将来的には教務内規の見直しを検討しなければならない。新しい学習指導要領の実施における観点別評価の実施を進めたい。令和4年度実施のために、次年度(令和3年度)に観点別評価の実施に向けた全体研修を実施したい。	授業の充実につながることを期待する。
進路指導	進路目標の明確化と自主的・機動的な志の育成	授業への取り組みに加えて、講習内容を検討し、進路指導部主催の進路講習・夏期講習等への自主的、積極的な参加を促す。	各講習において、参加申込をした生徒の出席率が80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満ならDとする。	—	コロナウイルス感染防止のため、第1学期は授業をはじめ、十分な進路講習も実施できず、影響は多かった。しかし、数回実施できた進路講習ではほぼ100%の出席率であり、生徒の進路目標達成への努力は見受けられる。	A	第2学期の進路講習について、すべての教科の出席率は84%であった。各教科でも講習内容を生徒の実態に合わせて計画し、実施して頂けたことが大きな成果であった。模擬試験等の結果を分析し、授業や講習に生かして頂けたことは大きな成果であった。	授業や校外模試等を通じて、生徒の実態を分析し、的確な学習指導を実施することが非常に大切である。次年度も引き続き、情報の的確な把握に努め、進路指導を充実させたい。	良好である。
		3年間で身に付けさせる力を再確認し、各学年のそれぞれの段階で、将来を見据えて自ら努力目標を設定し、最後までやり抜いていく力を培う。	生徒実態調査において、自己の目標に対してよく努力できたと回答した生徒の割合が80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満ならDとする。	—	各学年に応じた進路に関わる様々な啓発活動や集会、オープンキャンパスへの参加などが制約され、計画通りには進まなかった。今後もあらゆる手段や方法を工夫しながら進路に対する生徒の意識付けを続けたい。	A	各学年とも進路関係行事に対して、80%以上が有意義で、自己の目標を定めるきっかけとなったことには意義があった。近年はオンラインによる情報発信が増加しているが、やはり直接対面で話を聞き、自ら足を運んで情報を得ることが進路に関する動機付けや意識の向上につながると考える。	引き続き様々な情報発信や啓発を目的とした進路関係行事を続けて、早い段階から将来の進路目標を持たせ、それに向かって努力を続けるよう指導したい。	良好である。
生徒指導	規範意識、公共心の向上	学校生活のあらゆる場面で積極的な挨拶の励行を促す。	2学期末の生徒実態調査の中での挨拶に関する項目を集計し、本校生が先生や来校者に積極的に挨拶をしていると思う生徒が80%以上ならA、70%以上ならB、60%以上ならC、60%未満ならDとする。	—	コロナ禍においても元気に登校している姿に安堵する反面、内面には相当なストレスを抱えていると思われる。そんな中でも校門で積極的かつ笑顔で挨拶を交わしてくる生徒が増えている。	A	2学期末に行った生徒実態調査の中で「必ず自分から挨拶をする」「必ずとは言えないが自分からしている」と答えた生徒が87%を占めており、生活委員による毎水曜日の挨拶運動や毎日の教員による立哨指導の成果が見られる。	挨拶に関して「挨拶をされてから返している」挨拶をほとんどしない生徒が13%を占めており、この生徒達の意識を変える指導が課題である。	良好である。
特別活動	学校行事・部活動を通した、豊かな人間性と人格の涵養。	学校行事、HR活動、部活動に積極的に取り組み、目標に向かい努力することの意味と喜びを知る。	生徒実態調査により、学校行事やHR活動、部活動を自主的・自発的にすすんで実践し、達成感を得る事ができたと回答した生徒が80%以上A、60%以上B、45%以上C、45%未満ならDとする。	—	1学期、コロナの影響下で部活動をはじめとする諸活動に様々な制約が加わった。そのような中でも積極的に取り組む姿が見られ、今年なりの工夫した活動が行われている。生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。	A	「生徒実態調査」で学校行事やHR活動、部活動を自主的・自発的にすすんで実践することができたと回答した生徒が各学年90%を超えている。コロナ禍で行事や部活動に関して様々な制約があった中、与えられた環境を使って活力ある生活を送ることができている。	生徒の活力を生かしつつ、日程の変更や、アクシデントに臨機応変に対応できる行事運営を考えておく必要がある。また、形を変えてもできる限り実施をすることが重要である。	良好である。

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
人権教育	お互いを尊重する確かな人権感覚の育成を目指す人権ホームルームの充実。	自他の人権の擁護と尊重のために必要な資質や能力の育成を期し、生徒が人権に関する知的理解を深め、人権感覚の涵養に努められるような人権学習の実施。	各学年最終のアンケートで、生徒が積極的に、または関心を持って取り組んだとする回答が80%以上の学年が、全学年ならA、2つの学年ならB、1つの学年のみではC、どの学年も達しなかった場合はD。	B	在宅学習期間のため、予定していた内容では人権教育ホームルームを実施できなかった。しかし、生徒の活動が制限される中ではあったが、1、3年生では様々な人権問題について考察する機会をもつことができた。	A	新型コロナウイルス感染対策のため、計画していたおりの人権ホームルーム活動はできなかった。しかし、実状に対応した形で指導計画を変更した結果、生徒が積極的に取り組める展開ができた。2学期に実施した3年生へのアンケートでは、95%の生徒が、人権学習に対して「積極的にやれた」、「関心をもってやれた」と回答している。ウイルス感染に対する恐怖と不安から、様々な人権問題が露呈している現在、生徒が確かなものの見方や考え方を育てていけるよう取り組む必要がある。	人権ホームルームだけではなく、人権問題に対して日常的に意識する環境を作る。	良好である。
教育相談	教育相談に関する知識やスキルの共有。	教職員対象の研修(ストレスマネジメント・ケース会議・事例検討等)を企画する。	教員アンケートの結果、「職員研修が有効であった」と答えた教員の割合が60%以上ならA、40%以上ならB、30%以上ならC、30%未満ならDとする。	—	コロナ禍において、全体の職員研修は実施困難と考え、小規模のケース会議や事例検討会を複数回実施する予定(すでに実施済みもあり)。	B	コロナ禍の中、全体の職員研修はできなかったが、SCからの聞き取りの場に、担任や学年主任が参加して情報共有できることが増え、そこでケース会議を実施できることが増えた。その結果、生徒への適切な支援につながり、効果を上げることができた。今後もこのような情報共有の場を広げていきたい。	特別な支援を必要とする生徒への関わりについて、教員間の共通理解を深めるために、ケース会議等を気負わずできる雰囲気をつくり、来年度は職員研修も実施したい。	コロナ感染が落ち着き、研修の実施ができるようになれば取り組んでいきたい。
保健体育	生涯を通じて健康な生活が実践できる力の育成	「保健だより」を活用しながら、怪我・疾病予防など、健康への関心を高める。	生徒実態調査において、「保健だより」を読んで、『怪我・疾病予防などに生かされた』が、60%以上ならA、40%以上ならB、20%以上ならC、20%未満ならDとする。	—	生徒実態調査がまだ終わっていないため自己評価は出せない状況です。	B	「怪我や疾病の予防に生かされた」と答えた生徒が全体で48.5%であった。昨年度より18%増えている。「全く読んでいない」と答えた者も30.5%から22.5%と、減少している。新型コロナウイルスの影響もあると思われるが、健康についての興味関心が高まってきたことがわかる。	1・2年生は保健の授業で配布し話しているが、時間を取ることが難しい時も多い。さらに読ませることを徹底し、自己健康管理ができるよう、興味関心を高めていこうにしなければならない。	引き続き指導願いたい。
	たくましい体力の育成、活動の充実	体育に関する行事「新体力テスト・体育大会」等を実施し体力の向上および活動の充実を目指す	生徒実態調査において「新体力テストや体育大会など体育行事を通して、自己の体力向上に努めている」が75%以上ならA、60%以上ならB、50%以上ならC、50%未満ならDとする。	—	生徒実態調査が実施されていないので、自己評価は、出せない状況です。また、新型コロナウイルスの影響で現在新体力テストを実施できていない状況です。	B	「日々の生活を通して、自己の体力向上に努めている」と答えた生徒が、74.5%であった。「体力を高めたい」と考えている生徒が79.6%で体力向上を実践している生徒が大多数である。「体育行事に積極的に参加した」「参加した」と答えたは92.1%は、運動することへの意欲があると思われる。	行事だけでなく、日々の生活を通じて体力を高めることで、パフォーマンスを高め、より体育行事も楽しみながら行うことができることに繋がる。何よりも健康寿命が延びて、老後の活動にもプラスになることを意識づけていけるよう努めていきたい。	引き続き指導願いたい。
文化図書	豊かな人間性の育成を目指した読書活動の推進	読書HR、ビブリオバトル、図書だより『共慶』、ポスター掲示などを通して、読書活動への意欲を高める。	読書HR後のアンケート及び生徒実態調査において、いろいろな読書啓発活動から、「読みたい本が見つけた」「興味を持った本が見つけた」と答えた生徒の割合が75%以上ならA、65%以上ならB、55%以上ならC、55%未満ならDとする。	—	臨時休校等の影響で、1学期の読書HRは9月に延期になった。図書だより『共慶』も発行が1回減ってしまったが、図書委員が工夫をして作成、発行した。今後、読書HR、『共慶』の発行、「ビブリオバトル」HRにむけた図書委員研修を実施していく。評価は、生徒実態調査実施後行う。	B	「読みたい本が見つけた」「興味を持った本が見つけた」と答えた生徒の割合は、「共慶」で52.7%、ビブリオバトルで97.0%、全体で74.9%であった。ビブリオバトルは、バトラーを全員に変えて実施して前年より1.5%増加、好評であったが、「共慶」は昨年度より4.6%減少した。臨時休校等の影響で調査当時2回しか発行できていなかったことが影響していると思われる。	「共慶」作成にあたり、今年度より始めた毎回6冊紹介を続けるとともに、紹介する本も、話題の本や時事の本等、多くが興味を持てるよう考える。また、見出しも興味を引かせるよう工夫する。	引き続き指導願いたい。
環境整備	生徒の自主的な活動による学校美化の向上	美化委員により、「すすんで清掃・整理整頓」を生徒全員に呼びかけ推進するとともに、各ホームルームや共同利用する場所の清掃状況を定期的に点検し、問題がある場所の清掃を強化し改善する。	生徒実態調査において、「清掃当番のとき、清掃活動にすすんで取り組んでいる」と答えた生徒の割合が、50%以上ならA、30%以上ならB、20%以上ならC、20%未満はDとする。	—	各クラスの美化委員が「すすんで掃除・整理整頓」というポスターを作成・掲示し、クラス全員に呼びかけ、積極性を高めようとしている。また、大掃除のたびに環境整備部や美化委員で清掃状況を点検し、問題があれば改善してもらっている。	B	掃除に「すすんで取り組んでいる」生徒は全体の48%で、昨年比が+4.5%であり、向上している。特に1年生の意識が高く、48.7%であり、3年生も2年生の時より+5.6%である。「すすんで」と「おおむね」を合わせると97.2%となり、良い傾向だが、Aに到達するまで、あともう一息なので、「すすんで」がさらに増えるよう工夫をしていきたい。	美化委員が掃除推進のポスターを掲示するとともに、大掃除ごとに点検し、改善してきた。左記のように掃除に対する生徒の自己評価も高いが、掃除状況を見るため巡回すると、たまに不十分な箇所も見受けられるので、きれいな状況を維持できるように、さらに環境美化を呼びかけたい。	引き続き指導願いたい。
広報・情報	ホームページ、育友会関連連絡メール、学校案内、広報誌等、情報発信の充実	ホームページ、メールシステムを活用し、保護者への行事の周知徹底を図り、育友会行事の参加者の増加と満足度を高める。	利用者、参加者に満足度アンケートを行い、「よかった」と答えた保護者の割合が60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。(事後アンケート)	B	学校案内、育友会報、広報誌等の作成は例年通り実施。また、コロナ対策との関連でICT活用がすすみ、育友会総会はホームページを利用した書面議決で開催し、保護者の回答率も91.0%と周知徹底できた。さらに、ホームページの更新の回数も昨年より増加中である。(保護者アンケートは、2学期末に延期。)	B	保護者アンケートによる満足54.3%から、ホームページや連絡メールはある程度認知されていると考える。生徒実態調査のホームページ閲覧は、複数回見ている生徒の数値が30%も上がった。この増加は、コロナ対策で部活動も制約され在宅学習期間もある中で、生徒たちが学校の様子を知るためにHPが役立っているものとする。今後はさらにコロナ対策の情報発信等を考えていく必要がある。	育友会の書面議決は、スマートフォンアプリによる集計が効果的であった。保護者・生徒アンケートも、回答数の削減、ICT機器の保有率、等の問題を解消すれば、G-suite等のICT活用を進めたい。今後、コロナ対策により行事の中止・変更が予測されるので、HP・R365等の情報発信で対応したいと考える。	引き続き取り組んでいただきたい。
事務・管理	理化館建て替え工事を円滑に進める	教育活動への影響をできるだけ少なくし、また工事が円滑に進捗するよう、関係機関と調整を行う。	工事が工期どおりに、問題なく円滑に支障なく進んでいればA、調整可能ではあるが何か支障があればB、調整・改善はできるが教育活動に大きな支障があればC、工期が遅れるような大きな問題があればDとする。	A	毎週工程会議が開催され、本校要項事項は伝えて調整できる状況である。今のところ順調に工事が進捗している。	A	途中文化財発掘調査があり中断はしたが、今のところ工事は順調に進捗しており、工期(令和3年12月に新理化館完成)、(現理化館取り壊し令和4年3月)内での完成を目指して進んでいる。定期テスト期間中の工事中止を求めたが、工事遅延に関わるとのことで停止できなかった。	テスト期間中の騒音をシミュレーションした学校側で問題なしとの判断をした。今後も生徒の安全安心を考え、また授業環境にできるだけ影響のないよう、調整して進めていきたい。	良好である。
業務改善	勤務時間管理の徹底を図り健康管理を意識した働き方を推進	全教職員の出勤カードの習慣化を図り、勤務時間の管理を確実に行う。	年間の時間外勤務時間の1か月平均が80時間以内の割合が、90%以上ならA、80%以上ならB、70%以上ならC、70%未満ならDとする。	A	自宅教育や分散登校のため長時間勤務者は0名であった。	A	10月においては公式試合や練習試合の引率が原因で5名の教員が80時間以上の間勤務となったが、年間を通して80時間以上時間外勤務の教員は0名であった。	引き続き長時間勤務の解消に取り組んでいきたい。	良好である。